ミュニシパリズムと労働者協同組合 -生態系を創造する闘い

大阪労働学校・アソシエ 斉藤日出治

全体の構成

はじめに ユーチューブ「ドキュメンタリーバルセロナの連帯経済」

- 一 西欧社会における「フィアレスシティ」の台頭
- 二 バルセロナにおける協同組合の生態系
 - 一社会的連帯経済
- 三 協同組合運動の生態系創造の歴史
 - 一初期社会主義者とカール・マルクス
- 四 資本主義の生態系とその破局
- 五 日本資本主義の生態系(市場と企業)に挑む闘い

一 西欧社会における「フィアレスシティ」の台頭

グローバル資本による地域社会の浸食と破壊

- → 社会階層の分断、孤立化、貧困化、敵対
- →社会不安の増長、排外主義と憎悪の感情
- → 右派ポピュリズムの台頭



地域の自治民主主義、市民の直接的政治参加、公共サービスの再公有化、公営住宅の建設、共有地の占拠と自主管理、地域再生、地域コモンズの保護(スペイン、イタリア、デンマーク、フランス、オランダ、ベルギーなど)=住民自治の政治

スペインの事例

バルセロナ・コモンズ(市民プラットフォーム)

2008年以降貧困・格差の拡大=住宅・水の民営化 → 住む権利、水は命 → 地方政治を市民参加型にする →2011年15M運動 → 2014年市民政党ポデモス→ 2015年市議会選挙で第1党→アダ・コラウ市長

住民のコモンズ=水、電気、住宅、交通、健康、教育、食料、公衆衛生を自己管理する運動

=<住民自治の政治 ← 住民自治の経済=協同組合>

 \uparrow

協同組合の生態系

二 バルセロナにおける協同組合の生態系―社会 的連帯経済

スペインの労働者協同組合=労働者が出資し、経営参加し、労働する民主的な組織 18000の労協、30万人の組合員(半数が女性)、50万人の雇用者

グローバル資本主義のオルタナティブー「協同組合の生態系」

- ① 協同で事に当たる心構え、行動手順、思考様式
- ② すべてのひとの社会参加を保証する一女性、移民、障碍者(カタルーニャ・ワイナリー・ルリベラ)

↓ ↑

日本における<協同組合の生態系>の不在

パワハラ・マタハラ被害を受ける女性、施設に収容されて死亡する外国 人 → この国にはいかなる生態系が作動しているのか? F・ガタリ『3つのエコロジー』平凡社、1989年Ecosophie 「環境 - 生態的哲学」杉村昌昭訳

ひとびとの社会的なつながりの衰弱=エコゾフィーの危機

- → 階級闘争から「3つのエコロジーを基軸とした多極的戦略」へ
- 1 環境の生態一自然とのかかわり
- 2 社会の生態―社会関係のありかた、集合的合議、行動方法
- 3 心の生態一ひとの心の在り方・ものの感じ方=すべての生命 体への配慮、時間と空間の在り方、他者への配慮、責任と連帯

- 1は2と3の集団的合意や行動様式、集合的主観において組織される

1 生まれてから死ぬまでの人生のすべてにかかわるサービスを提供する協同組合

「普通の企業の活動と同じくらい多岐にわたっている」工藤律子『世界』246頁

工業化 → 労働者居住区 → 共同の自主管理=暮らしをよくするために「集団で事を起こす」伝統(A・ハーシュマン『連帯経済の可能性』)

出産・育児から埋葬まで地域の社会的必要性から生まれる協同組合

ー輸送と配送、デザイン、FRESCOOP(有機農産物の消費者協同組合)、医療協同組合COS、 住宅協同組合、ジェンダー、環境、森林、バイオ、再生エネルギー開発、雇用、時間銀行、 倫理金融、教育・文化・芸術、外国人の権利を守るNPO,

学校教育の労働者協同組合一バレンシア州バレンシアの「フロリダ」 - 保育園から大学・成人教育まで運営する一地域主義的な教育をめざす

性教育コンサルタント協同組合、バルセロナ都市圏無線タクシー協同組合

LEstoc リサイクル素材で各種家具を製造する組合

Grevol 一教育協同組合、La Virtual 一大学生協

2 外に開かれた社会関係の創造

「混合協同組合」一労働者、出資組合員、消費者組合員、協力組合員(ステークホルダーの参加一演劇やコンサートの上演、新刊発表会)

一多様な関係者の協同的関係の創造を目的として、協同組合組織 はそのための媒介、あるいは手段になる

Cf. ステークホルダー資本主義とのちがいー株式会社の運営に関係者(株主・経営者・従業員・消費者・地域・・)がかかわる

→ 混合協同組合は、多様な当事者の関係行為が既存の協同組合という組織形態を超えた新たな共同性を創造する

3 協同組合の発展を促しサポートする体制の整備

- ① 協同組合相互のネットワークを組織する活動
- ② 協同組合がそのネットワークの組織化のために地方行政と連携する
- → 社会的連帯経済の孵化器=インキュベータ—
- →← 資本主義経済=ベンチャー企業を立ち上げるための支援機関-TLO(技術移転機関)法
- ③ カタルーニャ州政府の社会的連帯経済予算の増額
- ④ 社会的連帯経済法 2023年(スペイン2011年、ポルトガル・メキシコ 2012年、エクアドル・フランス2014年)
- ⑤ 行政の支援政策(金銭的支援、認知支援(女性、貧困層、各種団体への各種研修、運営支援)、技術支援(各種の技能習得)、企業間の相互協力、ネットワークの組織化)
- → 資本より人間、私益の制限、民主的管理、企業の集団保有、地域社会の ための経済の促進 廣田裕之「社会的連帯経済法マニュアル」2022年5月1日

4 協同組合思想を育てる運動

文化・芸術の労働者協同組合一アンダルシア州セルビアの「カオティカ」 -書店、音楽、演劇、図書館 ジェンダー、セクシュアリティをはぐくむ多様な運動

- 5 移民に学び、移民の生活を支える一社会的弱者の社会参加・移民協同組合「ムヘーレス・バランテ」 ラテンアメリカ、西アフリカの移民女性 家事・育児・介護・ペルー料理などのケータリング
- 6 コミュニティ空間の創造運動

建築・都市デザインの労働者協同組合-バルセロナの集合住宅建設

7 コモンズ(「われわれ」)を育てる運動

コモンズ(社会的共通資本)とは、水・大気・森林・河川・海洋といった自然資源であるだけでなく、ひとびとの相互関係の在り方、そのありかたを自覚する共通感覚であり、身体が世界に向き合う志向性=「生態系」

- 1) 連帯のネットワークを組織する運動—経済 + サーカス、演劇、舞踏、音楽、文化、教育、学校、オーケストラ、合唱 → 「われわれ」という「集合的主観性」(ネグリ、ガタリ)を立ち上げる運動
- 2) メディアの自己組織→←GAFAM(消費者欲望をグローバルに吸い上げ統治する機関)

GEDI 新聞やラジオ番組・ウェブサイトの制作から若者支援や国際協力まで行う社会イニシアティブ協同組合

JAMGO ウエブサイトの作成やアプリのデザインなどを行う労働者協同組合

三協同組合運動の生態系創造の歴史

- -初期社会主義者とカール・マルクス
- 1 初期の協同組合運動における「生態系」創造の志向
 - 1) ソーシャルな文化の創造

ロバート・オウエン(1771-1851) 1800年以降、ニュー・ラナーク紡績工場の経営、1825-27年アメリカのハーモニー協同村

1835年万国全階級協会の結成-オウエンの運動を全国化する

新聞、パンフレット、後援会、討論会、歌・踊り・音楽=「ソーシャル・フェスティバル」

教育と娯楽を結びつけ文化活動による慈愛・博愛の精神の培養

ブルジョア文化、貴族文化に対抗する「ソーシャルな文化」の創造運動

封建的な身分制秩序が崩壊して出現した私的所有を原理とする社会=市民社会において、この社会をソーシャルな文化へと磨き上げていく運動-「文化的公共性」(ハーバーマス)

2) コミュニティの建築空間の生産

① オウエンの労働者協同村構想

四角形の回廊型の建物一建物の内部に、住宅、診療所、共同炊事場、食堂、学校、講堂と礼拝堂

建物の外部一庭園、製造工場、農園施設

- ② ジャン・バティスト・アンドレ・ゴダン(1859-1884年)のファミリーステールフランス北部のギーズに労働者協同住宅の建設 山本理顕『権力の空間/空間の権力』アトリウム(ガラスで屋根を覆った巨大空間)を囲む四角形の住宅建築、中庭に面する住宅で、各階にバルコニーが設置され、中庭ではダンス、集会が開催され、1階には日用品、食料品の店舗
- 一「パレ・ソシアル」=ソーシャルな宮殿
- コミュニティの思想が共同住宅建築というかたちで「物質化materialization」されるファミリステールー「同じ空間の中にともに住むというアソシエーション」山本理顕86 頁の空間化

3 建築空間における生態系の転換の歴史

山本理顕

- ① 先近代の建築-私的領域と公的領域のどちらにも属さない場所=「無人地帯」(ハンナ・アレント『人間の条件』)=「閾(しきい)」をはらんだ建築空間=法という共同生活の根拠 →オイコス(家)とポリス(都市国家)の関係が古代ギリシャの民主主義を産み出す → スペイン、ネパール、インド・・・・日本
- ② 近代における共同性を奪われた私的空間ー「労働者住宅」 フランス北東部の工業都市ミュールーズの「労働者住宅」 一住人を隔離し集合の機会をできるだけ制約し共同性(ともに住む)を排除する管理空間 71-78頁 → パリの都市計画(オスマン1853-1870年)
- ③ 「地域社会圏」構想 242頁の図ー空間(世界)を共有している、他者とともにいる、という感覚(「集団的主観性」)の創造

建築空間の生態系 山本理題『権力の空間/空間/空間の権力』

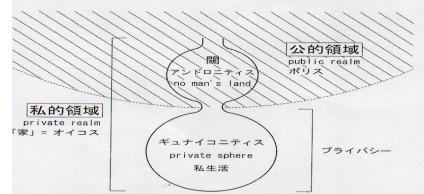


図4 閾の概念図(著者作成)。「閾」はprivate realm (私的領域)に含まれる空間である。public realm (公的領域)に対して開かれた空間である。「閾」は私的領域の内側にあって、それでもなお公的領域に属する空間である。それをアレントは"no man's land"と呼んだ。「閾」を含まないプライバシーのための空間は"private sphere"である。古代ギリシアでは奴隷と女の領域であった。「循環する生命過程」のための場所である。

古代キツシャの関の空間

ファミリーステール

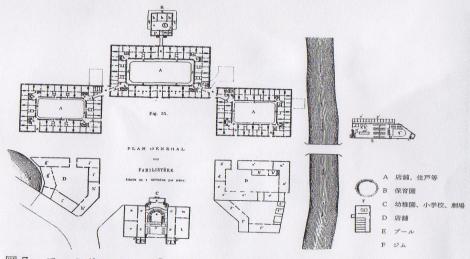
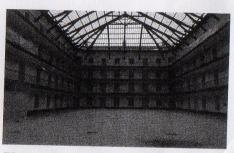


図7 ファミリステール② (出典:ベネヴォロ『近代都市計画の起源』104-105頁)。



図9 ファミリステール④ (著者撮 図8 ファミリステール③ (著者撮 や学校がある。



影)。パレ・ソシアルの外観。この正 影)。アトリウムを囲んで配置された 面広場を挟んで撮影者の背中側に劇場 住戸。アトリウムはイベント広場であ った。



図10 ファミリステール⑤ (出典: « Le familistère de Guise »)。ダンスは最 も重要なイベントだった。住戸にアクセスするための廊下が見物ギャラリーに なった。



図3 ミュルーズの労働者都市①(出典:中野隆生『プラーグ街の住民たち』37頁)。

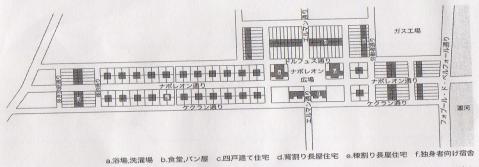


図4 ミュルーズの労働者都市②(中野隆生『プラーグ街の住民たち』41頁を元に著者が作成)。

勞動者住宅



4 カール・マルクス晩年のコミュニズムの探究

- 1 協同組合的生産の実現→「諸協同組合の連合体」が一つの協同的計画に基づいて全国の生産を調整=アソシエーション革命 『フランスの内乱』1871年
- 2 資本による人間と自然の物質代謝過程のかく乱に抗して、物質代謝を体系的に再建すること 農学・の抜粋ノート リービッヒ(土壌学)→フラース(気象変動)

「農民の愛好する「湿潤さ」の喪失」

3 古代史研究、共同体研究

物質代謝を持続させる社会と文明の探究 → ロシア農耕共同体の考察

4 ジェンダーへのまなざしー先近代社会における女性の位置の考察

佐々木隆治『カール・マルクスー「資本主義」と闘った社会思想家』ちくま新書

資本主義の生態系を変革して、協同組合の生態系(「3つのエコロジー」)をいかに創造するか?

四 資本主義の生態系とその破局

資本主義の生態系=商品(カール・マルクス)

- ―汚染された海水のタコは、きれいな海水で死んでしまう
- 資本制社会の富の原基形態 elemental Form としての商品 element(不可欠で全体をかたちづくる構成要素)
- →あらゆる生命活動の商品化→「擬制商品」と「市場のユートピア」(カール・ポランニー)
- 商品の交換価値が使用価値をえさにして自己運動する世界 → 私益の追求・競争・敵対・分断・かぎりなき成長 → 自然環境、連帯、協同、コミュニティの破壊
- → 協同組合の生態系の理念(自然、連帯、協同、コミュニティ・・)を資本の経営 戦略のうちに取り込んで延命を図る資本主義 → 延命措置がもたらす破局

1 生まれてから死ぬまでのサービスをすべて商品化する投資戦略

チェーンストアの経営戦略のキーワード=「ウェルビーイング」(世界保健機構1948年)の経済

- 一消費者の全生涯と暮らしの総体をビジネスチャンスに変換する戦略
 - → 従業員・顧客の健康と幸せを企業経営の課題とする

すべてのひとを生活する主体とみなすのではなく、資本が提供する サービスを受け取る「消費者」にする戦略

- =責任感覚の喪失と自己責任の押し付け
- → 快適な暮らしは、購買力=貨幣によって保障され、暮らしが快適になればなるほど生活者は自立した生活能力を喪失していく

2 貧困・格差と地球環境危機

-資本主義の生態系(=経済成長)がもたらす破局=目に見える破局

1) 温暖化と資本主義

1990-2018年 世界のGDP3.7倍、CO2の排出量206億トンから335億トン(2008年と2020年にCO2は減少)

2) 格差と資本主義

米国 上位10%が所得全体の51%を独占、トップ1%が22% を独占

3 協働と連帯の破壊による「むき出しの生」(J・アガンベン)の世界 — 目に見えない破局

社会のきずなが切断されることによる孤独、自己の喪失(「透明人間」)、他者に対する憎悪と攻撃ー「象徴的貧困」「実存的貧困」

→ 孤独死、社会的排除、スティグマによるアンダークラス、「二級市民」・・

ひとびとをサービスを受け取るだけの受動的な消費者にして、むき出しの生の状態を放置したまま、その状態を自己責任として放置し、リスクに対処する安全の方策(監視カメラ、マイナンバー)を考案しようとする。

民主主義の衰弱と「社会の昆虫化」ー自分で考えずに制度に預ける 一事故を起こさない自動運転車、コロナウィルス対策=「新しい生活様式」=行動すべき指針をあらかじめ制度化する(「新しい生活様式」)=玉手慎太郎「強い制度志向と倫理のアウトソーシング」『現代思想』2023年1月号

→ 死ぬ自由という選択肢=死の制度化=「プラン75」

五 日本資本主義の生態系に挑む闘い

1 日本資本主義の生態系

日本でミュニシパリズム(地域自治主義)を追求する運動は、西欧諸国のような社会的連帯経済という支えを欠いている → 社会的連帯経済を育てるための条件=資本主義の生態系に代わる協同組合の生態系を創造すること → 日本の資本主義に固有な生態系と対峙しつつその生態系を転換する社会闘争が求められる

日本資本主義の生態系とは何か?一市場と企業を主導とする市民社会の組織化=企業主導型資本主義」、「法人資本主義」

戦後日本の生態系は変わっていない(小熊英二) →「日本的経営」とは何か=企業横断的な社会的合意の不在 → 企業を超える社会的合意をいかに創造するか? → 無数の社会闘争が内包する共通の課題

2 企業横断的な社会規範を創造する労働運動―関西生コン

- 1 日本資本主義の生態系を変革する闘い1一産別労働運動
 - =企業を超える社会規範(共通の賃金水準、労働条件、雇用条件)の創造
 - =個人加盟で統一指令部をもった組織ー統一的労働条件(基本給、有給休暇、連帯 雇用保障) → 企業の外部で企業を制御する社会的権力の創造
- 2 日本資本主義の生態系を変革する闘い2-「背景資本」(セメント・ゼネコン)

に対する闘い=生コンの中小企業経営者を事業協同組合に組織する → セメント・生コンの取引価格を公正にする → 生コン産業の民主化 → 企業間・産業間関係への介入

→ 2019年以降の関西生コン労働運動弾圧-日本資本主義の生態系から発する暴力=「生権力とレイシズム」

企業を超える社会規範を創造し、企業間・産業間の個別資本取引関係に介入する労働運動が、日本資本主義の生態系から発動される暴力の洗礼を受ける

→ 極右組織、協同組合、労働組合、極右政治家からのヘイト攻撃

3 労働者協同組合法の制定

労働者協同組合法 2022年

第一条(目的)

「この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等を踏まえ、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする。」

2つの目的

- 1) 組合員による出資・労働・事業運営と雇用および就労機会の確保 ← 失業・貧困の増大
- 2) 地域社会の需要に応え、持続可能で活力ある地域社会の実現に資する ← 地域社会の衰弱 自己責任・自助努力による解決手段 → この法律を〈資本主義の生態系の補完物〉から〈協同組 合の生態系のインキュベーター〉へと変換する

4 近畿労働者協同組合の設立

- 1 地に足がつかない法律-市民社会の無関心と行政の無関心
 - ① 東京 厚生労働省窓口の対応

「労働者協同組合法というのが施行されたようですね」

- ② 大阪府商工労働部 雇用推進室 労働環境課 労働環境推進グループ 提出した届け書に対しての受付承認印を当初拒否する態度。 労働者協同組合の届け出は近畿労協が初めてであった。
- 2 資本主義の生態系の補完物ではなく、協同組合の生態系を創造するための労協の設立
 - ① 関西生コン労働運動の半世紀のわたるオルタナティヴな生態系創造の闘い
- ② 労働者自身の出資・経営参加・労働による事業への取り組みと、教育をふくめた地域自治の創造

参考文献

- 白川真澄『脱成長のポスト資本主義』社会評論社、2023年
- 斉藤日出治『グローバル資本主義の破局にどう立ち向かうか』河合ブックレット、2018年
- ・ 斉藤日出治「日本資本主義と生権力ー関西生コン労働運動弾圧の根源にあるもの」『近畿大学日本文化研究所所報』第6号、 2023年3月
- ・ 津田直則『資本主義を超える経済体制と文明』晃洋書房、2022年
- 中嶋洋平『社会主義前夜―サン=シモン、オーウェン、フーリエ』ちくま新書、2022年
- ・ 土方直史『ロバート・オウエン』研究社、2003年
- 岸本聡子「ミュニシパリズム(地域自治主義)がひらく世界一公共と自治を取り戻す」アジア太平洋資料センター『コロナ危機と 未来の選択』コモンズ、2021年
- 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社現代新書,2019年
- 工藤律子「スペイン「労働者協同組合」の最前線」『世界』2023年4月号
- 工藤律子『雇用なしで生きる一スペイン発「もうひとつの生き方」への挑戦』岩波新書、2016年
- 工藤律子『つながりの経済を創るースペイン発「もうひとつの世界」への道』岩波書店、2020年
- 廣田裕之(やすゆき)『社会的連帯経済入門』集広社、2016年
- ・ 山本理顕『空間の権力/権力の空間』講談社選書、2015年

「ミュニシパリズムと労働者協同組合」講座 第2回「近畿労働者協同組合」

武建一(関西生コン支部元委員長)・脇屋敷清(1979年~1984年まで関生支部の書記長) 関西生コンの労働運動が半世紀の成果を踏まえて、労働者協同組合の設立に挑む